



発行所
 一般財団法人
 広島県動員学徒等犠牲者の会
 事務局
 広島市南区比治山本町12-2
 広島県社会福祉会館内
 〒732-0816 電話 (082) 252-0316
 印刷所 Taisei
 デジタルブック
 “衝突の証言”
<http://www.douingakuto.com/>

第61回原爆死没者追悼式を挙

昭和32年2月に当会が設立され、その年の10月に第1回の慰霊祭が挙行されてから第61回目となる原爆死没者追悼式が、8月6日9時から動員学徒慰霊塔前広場で、遺族、来賓、代表校生徒など約300人の参列により厳かに挙行されました。

式 辞

理事長 井上公夫

本日、ここに、多数の御遺族、ご来賓の皆様をお迎えして、第61回目の原爆死没者追悼式を挙行するに当たり、動員学徒・女子挺身隊として出動中被爆し、犠牲となられた七千有余名の英霊に対し、深甚なる哀悼の誠を捧げるものであります。

本日参列されている安田女子高等学校の生徒さんと同年代の、その当時の中学生、女学生は、欲しがりません勝つまではと、慣れない手付きながらも、一生懸命ひもじいのも我慢し、幼い生命でも国のためになるのだと喜び勇んで学業を捨てて、ひたすら国の使命に殉ずる事に大きな誇りを持って、頑張っていたのであります。

そして、軍需工場での作業あるいは建物疎開作業などに従事中、多くの生徒が、原爆により若い生命を散らし、また傷ついたのであります。

安田女子高等学校の前身の安田高等女学校の生徒さんも、現在の平和記念公園の南側にあった県庁付近で建物疎開作業に動員中、職員、生徒が全滅するなど、数多くの犠牲者を出しておられます。

私たちは、現在の平和と繁栄を当然のように考えてしまいがちであります。しかし、この平和と繁栄は、このような多くの方々の尊い犠牲の上に築かれているものであるという事実を、決して忘れてはなりません。

目次

第61回原爆死没者追悼式式辞	1
同 追悼のことば	2～3
平和記念資料館東館を見学して	4～5
兄からの手紙	6
終戦24時間前の空襲がくやしい	7
辻靖司さんの平和活動への	
取組内容の概略	8
あとがき	8

被爆者の平均年齢は80歳を超えるなど高齢化が進んでおり、各地で被爆者団体の解散という報に接します。

本会で活動されている人は、現在20名余りでありますが、幸いにして、被爆体験伝承者がお二人おられるなど、ますます心配する状況にはありません。しかし、今後、持続的かつ安定的に活動していくためには、人的資源をいかに確保していくかが大きな課題となっております。

戦後生まれの世代が、今や人口の8割を超えており、近い将来、戦争や原爆を経験していない人だけで、ヒロシマを受け継ぐようになる日は遠くないと思います。

本会においても、活動されている人で、被爆を体験されている方は、減少の一途をたどっております。その方々の、「私にはもう時間が



追悼式に参列されたご遺族

ない」と、不自由な体をおして、会の活動に出てこられる姿には、「悲惨な戦争を二度と繰り返さないためにも、その記憶を風化させることなく、次の世代に伝えていこう」とする強い使命感を感じるのであります。

こうした方々の意志を継承し、今後とも「核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現」に向けて、戦争の悲惨さと平和の尊さを末永く後世に伝えて参りたいと思えます。

終わりにになりましたが、本日の式典に際し、ご遺族の皆様並びにご臨席を賜りましたご来賓の皆様には厚くお礼を申し上げますとともに、動員学徒の御霊に永久の安らぎと、ご遺族の皆様を、心からお祈りし、式辞といたします。

追悼のことば

広島県知事

湯崎 英彦

本日ここに「第61回原爆死没者追悼式」が執り行われるに当たり県民を代表し、謹んで追悼のことばを申し上げます。

顧みますと、あの忘れることのできない日から、72年という歳月が過ぎ去りました。

人類史上初めて使用された原子爆弾は、この慰霊塔の上空で炸裂し一瞬にして広島を焦土と化し、無限の可能性を秘めた動員学徒や女子挺身隊の方々を始めとする多くの尊い生命が失われました。

祖国の発展と安泰を願い、建物業開などに従事中に亡くなられた余りにも若い犠牲者の方々の無念の思いを推しはかる時、哀惜の念、胸に迫るのを禁じ得ません。

また、最愛の我が子や、肉親を失なわれた御遺族の皆様には、長い間言葉に尽くせない深い悲しみと、多くの困難を乗り越えてこられたところであり、その間の御心労と御努力の程は、察するに余りあります。

私たちは、先の大戦の体験から「あやまちは一度と繰り返しません」と固く決意しました。

しかしながら、戦後生まれの世代が大多数を占める中、戦争体験、被爆体験の風化が懸念され、一方では、今なお、恒久平和と核兵器廃絶への道のりには、険しいものがあります。こうした今こそ、原爆の惨禍を乗り越えた「ひろしま」には、「核兵器のない世界」に向けた強い思いを国際社会と共有し、平和と安定の実現に向けて、努力して行く責任があると考えます。

そのためにも、戦争の悲惨さや、そこに幾多の尊い犠牲があつたことを、次の世代に語り継ぐとともに、国の内外に平和の大切さを強く訴えつづけていかなければなりません。そして、この二十一世紀を、誰もが心豊かに暮らせる、より良い社会とするため、全力を尽くしていくことを、お誓い申し上げます。

終わりに、犠牲者の方々の御冥福と御遺族の皆様のお多幸を、心からお祈り申し上げます。追悼のことばといたします。

広島市長

松井 一實

本日、一般財団法人広島県動員学徒等犠牲者の会の主催により、第61回原爆追悼式が執り行われるに当たり、犠牲者の御霊に対し、謹んで追悼の言葉を捧げます。

72年前、青春と学業の日々を犠牲にされ、ひたすら我が国と家族の安泰を願いながら、動員学徒として、また、女子挺身隊員として、建物業開作業などに従事されていた数多くの方々が、一発の原子爆弾により、若くしてその尊い生命を奪い去られたことは、誠に哀惜の念に堪えません。また、最愛なる肉親を亡くされた御遺族におかれましては、今なお、その悲しみはいかばかりかと、拝察申し上げます。

私たちは、こうした多くの尊い犠牲の下に、今日の豊かさや繁栄があることを忘れず、これを無にするこゝとなく、二度と悲惨な戦争を繰り返さないよう、次の世代に語り継いでいかなければなりません。

被爆者の高齢化が進む中、被爆の実相や平和への思いを継承し、さらにその思いを世界に広げ、被爆者の悲願である核兵器の廃絶へとつなげることが、今後の課題となっております。

このため本市では、被爆体験伝承者の育成など、人とのつながりで次世代への継承に努めるほか、皆様から御寄贈いただいた物言わぬ証人である被爆資料などにより、国内外へ原爆被害の凄惨さ、被爆者や遺族の苦しみ・悲しみなどをこれまで以上に伝えるため、本年4月にリニューアルオープンした広島平和記念資料館東館に続き、本館も平成30年7月



式典後のお参り

のリニューアルオープンに向けて、改修工事及び展示整備に着手しました。

また、明日からは、世界の7,400を超える都市が加盟する平和首長会議の第9回平和首長会議総会が長崎市で開催され、2020年までの核兵器廃絶を目指す「2020ビジョン」の実現に向けた議論を行います。

こうした一つ一つの取り組みを大切に、世界恒久平和にまい進する決意を新たに、犠牲者の霊を慰めるとともに、平和への深き祈りを捧げて、今後とも戦争の悲惨さと平和の尊さを末永く後世に語り継いでまいります。

終わりに、御霊のこしえに安らかなる御冥福をお祈り申し上げます。

とともに、御遺族の皆様の御健勝を祈念いたしました。追悼の言葉とさせていただきます。

安田女子高等学校

若槻真由

本日は、第61回広島県動員学徒等犠牲者の会の原爆追悼式に参列させていただきます。ありがとうございます。原爆の犠牲になられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

今から72年前、原子爆弾の猛烈な高温、爆風、火災によって広島町は一瞬で焼け野原となり、幼い子供らお年寄り、そして罪のない多くの人々の命が奪われてしまいました。昭和20年8月6日午前八時十五分のことでした。私たちが決して忘れてはならない瞬間です。

私たちの通う安田女子高等学校は、昭和20年当時、安田高等学校といいました。原爆が落とされたその日の朝、安田高等学校の生徒たちは、楠木町や三篠町の工場、飛行機の部品や靴を作ったり、爆心地付近の旧県庁の北側で建物疎開作業をしたりしていました。現在、学校の慰霊碑には、原爆で亡くなった生徒311名、教職員13名のお名前が刻まれています。その大半が勤労動員先で被爆しました。真夏の青空の下、私たちと同じように、友達と楽

しくおしゃべりして日々を過ごしていた、女学生たちの尊い命が、たった一つの原子爆弾によって失われてしまったのです。

私たち、現在の高校生は勉強やクラブに打ち込み、自分の好きなことを思いっきりできる環境にあります。そして、私たちは明日があること、未来があることを疑いもせず、生活することができます。しかし、戦争中の同じ世代の子供たちはしたいこともできず、未来を夢みることもすらできなかつたのかもしれない。自分の意志とは関係なく、戦争のために働かされ、突然人生を奪われてしまった先輩方のことを想うと、当たり前の日常を当たり前に過ごせていること、これこそ本当の幸せであり、一番の平和だと感じます。

私たちの学校でも、毎年行われている慰霊祭を通じて、私は戦争の悲惨さと、平和の尊さを再認識するとともに、日常を普通に過ごせるありがたみをかみしめています。

ちなみに、安田学園白鳥キャンパスには、被爆校があります。桜の寿命は50年といわれています。また、原爆投下直後の広島では戦後70年は草木も生えないと言われていました。しかし、72年前の惨禍を乗り越え、本校の被爆校は今年も美しい花を咲かせてくれました。被爆校の美しさと生命力は、人々を笑顔にし、平和に対する希望、生きる喜びやす

ばらしさを私たちに感じさせてくれます。

被爆者の方の平均年齢は八十歳を超え、直接被爆体験を聞く機会は少なくなりました。私たちが、昭和20年8月6日から受け継がれてきた命を、広島で受け取りました。広島で生まれ育った私たちが平和を愛し、平和を願い続け、被爆者の方の思いを未来に伝えていかなければいけません。受け取ったバトンを未来へとつなぎ、私たちは被爆校のように、平和の芽を芽吹かせ続けたいと思います。

最後になりましたが、犠牲になられた方のご冥福と、ご遺族の方々のご多幸を心からお祈りし、謹んで追悼の言葉といたします。



安田女子高等学校生徒代表 若槻真由さん

第61回原爆死没者追悼式

式次第

- 一、開会の辞
- 一、国歌斉唱
- 一、黙祷
- 一、式辞
 - 一、来賓追悼の辞（敬称略）
 - 広島県知事 湯崎英彦
 - （代読）健康福祉局社会援護課長 日下仁彦
 - 広島市長 松井一實
 - （代読）健康福祉局高齢福祉部長 中村一彦
- 一、学校代表生徒の追悼の辞
 - 安田女子高等学校 生徒代表 若槻真由
- 一、献花及び来賓者の披露（敬称略）
 - （衆議院議員）
 - 岸田文雄 平口 洋 河井克行
 - 中川俊直 寺田 稔 亀井静香
 - 小林史明 小島敏文 新谷正義
 - 斉藤鉄夫 大平喜信
 - （参議院議員）
 - 宮澤洋一 柳田 稔 溝手顕正
 - 森本真治 山本博司
 - 蓮 舫
 - （広島県議会議員）
 - 福知基弘 石橋林太郎 辻 恒雄
 - 佐々木弘司 山下智之 山本靖雄
 - 砂原克規 河井案里 宮崎康則
 - 佐藤一直
 - （広島市議会議員）
 - 山田春男 山内正晃 木戸経康
 - 酒入忠昭 馬庭恭子 近松里子
 - 元田賢治 米津欣子 伊藤昭善
 - 海徳裕志 定野和広
 - （広島市遺族会）
 - 副会長 六郎貞介
 - （安田女子高等学校）
 - 校長 森 由美子
 - 一、閉会の辞

平和記念資料館東館を見学して

平成29年6月20日に、定例の動員学徒慰霊碑清掃をしたあとに会員有志で、ヒロシマ・ピース・ボランティアでもある会員の辻靖司の先導のもと、本年4月にリニューアルオープンした平和記念資料館東館を見学しました。その折の会員有志の感想文を掲載します。(敬称略)

1 先導した辻靖司の感想文

このたび「広島県動員学徒等犠牲者の会」の方々をリニューアルした東館にご案内しました。「リニューアルした東館」は1階からエスカレーターで一気に3階へ登るレイアウトになっています。

3階では、約1分半のCG映像の市街地を直径5mの模型に投影し、原爆投下により一瞬で暮らしが失われるようすを表した「ホワイトパノラマ」や展示の関連情報を検索できる端末「メディアテーブル」を新たに導入しています。

また、約1000人の方の被爆者証言を約20分のお話にまとめてあり、動員学徒慰霊塔の建立委員としても奔走された寺前妙子さんの証言も収められていることをご説明しました。

次に「原爆の開発から投下までの

道」「なぜ広島に投下したか?」「原子爆弾の脅威(広島・長崎に投下された原爆、熱線、爆風、放射線の被害)」「核の時代から核兵器廃絶へ向けて・核開発と拡散、核実験が及ぼす影響、核拡散防止の取り組み、核兵器廃絶実現に向けた世界の動き」について、パネル展示順に最新情報に基づいて説明をしました。

次に2階の展示は「戦時下の広島と戦争・戦前の広島、戦時下の広島」と「軍都」としては、広島城跡に陸軍の第五師団が置かれ、関連施設が市内各所につくられていたほか、宇品の陸軍運輸部や軍の大きな工場が3つありました。一方の「学都」を良く示すのが広島高等師範学校です。旧制中学の教員を養成する高等師範学校は、東京以外では広島にしかありませんでした。

次に私のボランティア活動では、小学生から社会人までの幅広い年代の方々をご案内しますが、どの見学者へも必ずご案内するのが「戦時下の広島」と暮らしです。72年前の戦時中の日本の国民がどのような生活をしていたか理解していただく重要性を強く感じています。

そして、3枚の展示パネルに分けて説明されている「動員学徒」「建物疎開作業」「学童疎開」については、「動員学徒」は、中学生3年生以上

は、軍需工場で兵器などを作る作業に従事していたこと。女性の方は、電話局での交換業務、軍服の縫製工場や病院の医療業務などへ従事していたこと。「建物疎開作業」は、木造家屋の密集地へ爆弾が投下された時の延焼を防ぐために、建物を壊して防火地帯を作る作業であり、この作業は中学1年・2年生が従事していたこと。現在の100m幅の平和大通りも、この「建物疎開作業」で、南北の延焼を防ぐ目的で作られた道だったこと。また、両親と別れて遠方のお寺での集団生活を強いられた「学童疎開」といったことなどについて、改めて説明をさせていただきました。

次の「広島市の復興、さまざまな支援・被爆直後の混乱と復興のはじめ、平和記念都市建設法と復興事業の進展、被爆者援護施策の成立と拡充」のコーナーでは、特に「被爆者援護施策の成立と拡充」について、寺前さんをはじめ動員学徒等犠牲者の方々が、協力して建立された「動員学徒慰霊塔」のことと、1957年3月に原爆医療法が成立し、被爆者健康手帳の交付が始まったことに関して、奔走されたご苦労のご説明をしました。

2階の最後は「平和な世界をつくる・広島市の訴え、市民による平和運動、被爆体験の継承・伝承」について説明をしました。私も寺前妙子

さんの伝承者として平和記念資料館や依頼のあった学校などを訪問して伝承講話をしているお話をしました。

次の1階の無料ゾーンの展示ですが、中国新聞社の松重さん撮影の貴重な写真や米軍が松山沖から1時間後に撮ったキノコ雲の写真、原爆の犠牲になった遺品の展示を説明して約1時間のご案内を終えました。

関係者の方々のご案内で少々緊張しましたが、熱心に見学していただいたおかげで、とても充実した時間を持つことができました。

2 井上公夫の感想文

1階入口正面の「三人の中学生の遺品」は、私にとって、広島市立中学校1年生で建物疎開作業中に被爆し、8月7日に日赤病院で死亡した兄そのものです。

小網町で被爆し翠町の家に帰ろうとして、本川と元安川を泳いだのか、橋を渡ったのか、想像するばかりです。

中学1年といえは身長150cmほどで、いまだ少年期から抜けきらない立ち姿に接するたびに、原爆の酷さに絶句し、黙々と「核兵器の廃絶と世界平和」を希求するばかりです。

3 日和隼巳の感想文

入館しすぐ正面にある、目を見張るばかりの大きなパノラマには、戦前の静かな広島市、そこへ原爆投下! その直後の壊滅した広島市内

の様相が、CGにより再現されています。大変な衝撃を受け、原爆の恐ろしさを改めて認識した次第です。

10代半ばで動員され一瞬で7,000余名の命を奪われた学生の遺品も、数多く見受けられました。

戦後70余年、動員学徒の親は殆どが亡くなっており、兄弟姉妹や甥姪等によって位牌が祀られて段々と記憶も薄らいできておりますが、原爆は人類と絶対に共生できないことを念頭に置いて、原爆死した動員学徒の顕彰及び世界平和を希求する本会の目的を、これからもより一層着実に推進しなければなりません。

4 谷口了子の感想文

リニユールされた館内には、多数の老若男女が訪れていて、地元なのに久しく足が遠のいていたことを恥ずかしく思いました。

市民が生活していた原爆投下前の写真は、被害を伝えるのに非常に効果的と感じました。

被爆体験の証言ビデオなどを充実させて、後世に残す役割を果たす工夫がされていました。

一発の原子爆弾で、ここでもあそこでもたくさん大切な人が亡くなり、今も苦しみを抱えている被爆者及び遺族の心中を思い、二度と犠牲者を出してはいけないとの気持ちを確認しました。

ポイント毎に辻さんの懇切丁寧な

説明があり、意義深い時間を過ごすことができました。

5 谷村美智子の感想文

私はたまたま数か月前に、会員のWさんと見学しましたが、丁度修学旅行中の子供さんたちと一緒に早起き、ゆっくり見学することができず早々に退散してしまいました。

今回は、伝承者であり会員の辻さんのご説明で、目と耳から十分な情報を受けながらの見学となりました。まず、原爆投下直後のドームを中心とする街一帯の光景を示すパノラマに息をのみ、一瞬氷つくような思いでした。

そして、8時15分のままの腕時計、熱風で焼けた制服、弁当箱と黒いのごはん、また御幸橋付近での母子の写真に釘付けになりました。熱かったでしょう！ 痛かったです

我が子を抱きかかえながらどうすることもできない母の顔などの一枚一枚の写真が、生きていくすべての人に、悲惨、驚愕、無念さを、切々と訴えているようでした。

その他の展示物についても同じように、見る人に過去の悲惨な状況と戦争の恐ろしさを語り、そして平和の尊さを訴えているように感じました。現在でも核戦争の恐ろしさは消えません。広島市民の私達から全世界へ、核兵器廃絶の声を出さねばなり

ません。子供たち孫たちを、戦争に送り出すことのない世を続けなければと、平和を祈りながら資料館を後にしました。

6 武田実智恵の感想文

原爆資料館を見学して、先ず、焼け焦げた服、潰れた弁当箱、熱で変形した瓶が強く印象に残っています。

それから、一発の原爆で焼け野原となった広島市内のパノラマを見て、広範囲が焼き尽くされ僅かな建物しか残されていない有様は、驚きの何物でもありませんでした。

昨今、原子力の利用、原爆の製造のことなどが、新聞や雑誌等に書かれていることがありますが、平和を第一に考えた行動をしてほしいと思います。そして、平和な日々が末永く続くことを強く願った一日でした。

7 本地正治の感想文

今回の資料館見学で最も感心したことは、視覚により強く訴える展示になっていったことでした。

CGを駆使した原爆投下直前直後の市街地の様相パノラマ、案内表示や掲示物の説明表示の日本語と英語の表記文字をより大きくしていることなど、これまでに以上に、原爆投下の悲惨な実態などがわかりやすく把握できるようになっていました。

市街地の円形パノラマでは、原爆投下直後のシーンで周りの観衆の中

には、「ウワー！」と驚愕の声を上げている人がいました。また、声を上げない人たちの中には、原子爆弾の威力の強大さ、安穩としていた街並みが一瞬に焦土と化した悲惨な有様に、大きく息をのんで凍り付いた方もおられたでしょう。「知っていた」「わかっていた。」としても大変ショックな映像展示でした。

表示文字の大きさを大中小で表現するならば、日本語が大文字、英語が中文字、中国語とハングル語が小文字でした。また、観客の見学動向を考慮しての表示モニユメントの配置、観客視線を意識しての表示文字の大きさ、表示位置の高さなどにも感心しました。

今回のリニユールは、日本国内及び世界各国から原爆に関心を寄せてご来館いただく人々に対して、原爆投下の現状をより分かりやすくご理解いただく上では、被爆中心地としての広島が目躍如といえるのではないのでしょうか。

また、平和な世界をつくる「コーナー」において、様々な平和活動が継続展開されている状況が展示されていました。個人、団体、行政による核兵器なき平和世界の実現に向けての活動が、世界各地で多くの人々により、日々地道に行われていることを改めて強く認識するとともに、頭が下がる思いでした。

兄からの手紙

中尾 俊 男

あまりに凄まじい惨状の故か、父も母も被爆の実態について、死ぬまで私に一言も語ることはなかった。

◎ 昭和17年8月27日付けの手紙

(当時は県立広島商業1年生)

兄が中尾の伯父がいよいよ出征することを知って、はがきに書いた鉛筆書きの文章。当時は年齢13歳。未だ幼い感じの文章だが、時代を反映し一生懸命さがにじんできている。

(手紙の内容)

叔父さん、いよいよ出征される事になりましたね。國の為、君の為、一所懸命働いて下さい。僕も銃後の一人として、體を鍛え学問に励みます。

ついではおじさんも體に氣をつけて一生懸命働いて下さい。

県商の寄宿舎で祈って居ります。

敬具

八月二十七日

広島市江波町

縣立広島商業 青雲寮 大倉昭三

◎ 昭和19年7月5日付けの手紙

(当時は県立広島商業3年生)

1年生323人は市中心部中島町の建物疎開作業に動員され、集合場所の本川土手での朝礼中被爆し全員死

した。動員学徒として勤労奉仕が義務付けられた昭和19年、日新製鋼所に働き始めた時の様子の知らせとともに、休暇が取れた時に撮った写真を同封した手紙である。

15歳になり文章も文字もしっかりしてきた感じ。学徒の勤労奉仕活動

は終戦まで続くわけだから、長兄昭三は3年生4年生時は工場への勤労奉仕ばかりで勉強はほとんどができない状態だったことになる。また写真館で撮ったこの写真は、死を一年後に控えた貴重な最後の写真となった。

おばあさんにもお元気ですか。僕も毎日元氣にて通学して居ります。七月に入り毎日暑い天氣が続きます。もう田舎の方の田植えもすんだ事でせう。大へんおつかれと察します。僕達もいよいよ通年動員がかりまして、今から一年間毎日工場に通って居ります。まるで職工さんと同じです。でもこれもお國のための大事な勤労です。工場の方も大分なれて参りました。此の間久しぶりに工場の方の休暇がありましたので、其の時寫したのです。大へんぶささいでございます。どうかお取り下さい。では、おばあさんにくれぐれもよろしく。では さやうなら。

(手紙の内容)

拝啓 皆様にはお変わり御ざいませぬか。長らくご無沙汰致しましたね。

おばあさんにもお元気ですか。僕も毎日元氣にて通学して居ります。七月に入り毎日暑い天氣が続きます。もう田舎の方の田植えもすんだ事でせう。大へんおつかれと察します。僕達もいよいよ通年動員がかりまして、今から一年間毎日工場に通って居ります。まるで職工さんと同じです。でもこれもお國のための大事な勤労です。工場の方も大分なれて参りました。此の間久しぶりに工場の方の休暇がありましたので、其の時寫したのです。大へんぶささいでございます。どうかお取り下さい。では、おばあさんにくれぐれもよろしく。では さやうなら。

おばあさんにもお元気ですか。僕も毎日元氣にて通学して居ります。七月に入り毎日暑い天氣が続きます。もう田舎の方の田植えもすんだ事でせう。大へんおつかれと察します。僕達もいよいよ通年動員がかりまして、今から一年間毎日工場に通って居ります。まるで職工さんと同じです。でもこれもお國のための大事な勤労です。工場の方も大分なれて参りました。此の間久しぶりに工場の方の休暇がありましたので、其の時寫したのです。大へんぶささいでございます。どうかお取り下さい。では、おばあさんにくれぐれもよろしく。では さやうなら。

おばあさんにもお元気ですか。僕も毎日元氣にて通学して居ります。七月に入り毎日暑い天氣が続きます。もう田舎の方の田植えもすんだ事でせう。大へんおつかれと察します。僕達もいよいよ通年動員がかりまして、今から一年間毎日工場に通って居ります。まるで職工さんと同じです。でもこれもお國のための大事な勤労です。工場の方も大分なれて参りました。此の間久しぶりに工場の方の休暇がありましたので、其の時寫したのです。大へんぶささいでございます。どうかお取り下さい。では、おばあさんにくれぐれもよろしく。では さやうなら。

おばあさんにもお元気ですか。僕も毎日元氣にて通学して居ります。七月に入り毎日暑い天氣が続きます。もう田舎の方の田植えもすんだ事でせう。大へんおつかれと察します。僕達もいよいよ通年動員がかりまして、今から一年間毎日工場に通って居ります。まるで職工さんと同じです。でもこれもお國のための大事な勤労です。工場の方も大分なれて参りました。此の間久しぶりに工場の方の休暇がありましたので、其の時寫したのです。大へんぶささいでございます。どうかお取り下さい。では、おばあさんにくれぐれもよろしく。では さやうなら。

おばあさんにもお元気ですか。僕も毎日元氣にて通学して居ります。七月に入り毎日暑い天氣が続きます。もう田舎の方の田植えもすんだ事でせう。大へんおつかれと察します。僕達もいよいよ通年動員がかりまして、今から一年間毎日工場に通って居ります。まるで職工さんと同じです。でもこれもお國のための大事な勤労です。工場の方も大分なれて参りました。此の間久しぶりに工場の方の休暇がありましたので、其の時寫したのです。大へんぶささいでございます。どうかお取り下さい。では、おばあさんにくれぐれもよろしく。では さやうなら。

おばあさんにもお元気ですか。僕も毎日元氣にて通学して居ります。七月に入り毎日暑い天氣が続きます。もう田舎の方の田植えもすんだ事でせう。大へんおつかれと察します。僕達もいよいよ通年動員がかりまして、今から一年間毎日工場に通って居ります。まるで職工さんと同じです。でもこれもお國のための大事な勤労です。工場の方も大分なれて参りました。此の間久しぶりに工場の方の休暇がありましたので、其の時寫したのです。大へんぶささいでございます。どうかお取り下さい。では、おばあさんにくれぐれもよろしく。では さやうなら。

敬具

広島市江波町 一二三三

広島県立商業 青雲寮中寮二室

大倉昭三



兄 大倉昭三

私は、生前高齢の母に付き添い、8月6日の原爆の日には毎年広島県動員学徒等犠牲者の会追悼式に参列しておりました。16年前、配達されてきた会報「ともしび」で清掃会員募集を知り入会し、以降広島県動員学徒等犠牲者の会の活動に参加しております。毎月20名前後の皆さんと慰霊塔周辺の清掃や西向寺での供養に参加し、毎年8月6日の原爆死没者追悼式の手伝いなどの活動を行っています。

現在一緒に活動している会の仲間の皆さんの中に、昭和20年8月6日学徒動員中にある原子爆弾で被爆し、瀕死の重傷を負うもからくも生き残られた方がおられます。現副理事長の寺前妙子さん、前理事長の土井通哉さん、会相談役の榎寄昭夫さんです。土井さんと榎寄さんは当時広島県立商業の一年生に在学中で、私の長兄昭三の3年後輩になります。特に榎寄さんと兄は広島商業青雲寮でも一緒だったと榎寄さんご本人からお聞きし、不思議なご縁を感じている次第です。

私の父と母は、8月6日から9月に掛けて二人の子供捜しのため、広島山県郡旧八重町から広島市内に頻繁に出掛けたが、発見するには至らなかった。

当会の松浦輝紀理事が友清坦様の葬儀に参列されたとき、コピーされた次の文章が置いてあり、動員学徒の空襲体験にも目を向けることも必要ということ、掲載するものです。

終戦24時間前の空襲がくやし

友清 坦(当時16歳)

光海軍工廠で空襲を体験

私は、昭和19年(1944年)8月から山口県の光海軍工廠で海軍の特攻兵器、人間魚雷「回天」のエンジン部分の組立作業に従事し、終戦間際の8月14日正午過ぎのB29の大空襲によって738人の同僚を失いました。私は戦後長い間、光市に足をむけることはありませんでした。それは当時の辛い体験を思い出したくなかったからです。

しかし、戦後60年の年に、マスコミが「原爆で戦争が終わった」というようなキャンペーンをしたことに対して、「あの738人の死はなんだったのか」終戦前日になぜ殺されたかと思えばならなかったのか」という思いを強くしました。空襲で犠牲となった仲間の無念をはらすために、光海軍工廠の廃材を使って戦後つくられた広島県安芸郡海田町の九十九(つくも)橋を語り、高校生などの若い世代に戦争体験を伝える活動をしようになりました。

私は昭和4年(1929年)に生

まれ、もの心ついたときには、社会は軍事色一色でした。子どもの遊びは戦争ごっこで、小学校一年の教科書の最初の方のページには「ススメ、ススメ、ヘイタイススメ」と書かれています。そのような状況のなかで育ちました。

そうして中国との戦争が始まり、昭和16年12月8日早朝には大本営発表の臨時ニュースで、日本が米英との戦争に突入したことが報じられました。最初は「勝った、勝った」といっていましたが、しかし、日本国内の生活はどんどん逼迫していき、おコメをはじめすべての物が配給制となり、限られた割当の衣料切符で衣服を買うようになりました。昭和17年4月に旧制中学に入学すると、間もなく英語の教科がなくなるかわりに軍事教練が増えていき、各中学校には武器庫があつて、教練用の歩兵銃がおかれていたような状況でした。

昭和19年3月に学徒動員令がだされてからは、中学一年生以上は授業をせずに軍需工場などに勤労動員されました。私は、今の米軍岩国基地がある当時の日本海軍の飛行場や大竹の陸軍燃料廠の防空壕づくりなどに動員され、8月からは初めて親元を離れて当時最新鋭といわれた光海軍工廠の造機部組立工場で働くようになりしました。そこは潜水艦のエンジンをつくる工場で、〇六(まるろく)と呼ばれた人間魚雷「回天」の小さなエンジンの組立をおこなって

いました。だがそのことは戦後になつてわかつたことで、当時は知らされていませんでした。私は当時、自分たちが作っているものを敵を倒すための兵器とばかり思っていました。だが、この「回天」は実は特攻兵器で、日本の兵隊も殺す兵器でした。

8月14日は、朝からカンカン照りで、空襲警報発令と解除の連続でした。昼頃にすべての警報が解除となり、ほっとして食堂に向かおうとしたその時、突然遠くで「ドカーン」と爆弾の炸裂する大音響がし、いきなり空襲警報発令・総員退避命令で工場の外へ退避しました。海の方から十数機の編隊を組んだB29 157機が次々にやってきて絨毯爆撃が始まりました。両手で目と耳を押さえ、地面に伏せ、ちらつと上を見ると、低空を飛ぶB29の機体から黒い爆弾が離れるのが見えました。次の瞬間から「ビューツ」と爆弾が風を切って落ちてくる不気味な音が聞こえ、その音が背中に吸い込まれてくるようでした。その時、「お父さん、お母さん、坦はお国のために光で死にます」と心の中で叫んでいました。そして死を覚悟しました。やがてどこかでその爆弾が作裂すると、自分の背中の上でなくてよかつたと思いましたが、あの爆弾で命を失つたり足もちぎれたりした人がいると複雑な気持ちでした。爆弾が落ちてくるわずかな時間の間に、自分の子どもの時

のことや兄弟のこと、母親がかわいがってくれたことなど、生まれてこのかたのことが一気に頭の中を走馬燈のようにめぐりました。あの時の恐ろしい気持ちは、二度と味わってはいけない体験だと思います。

必死で工場の門から外へ逃げ、何時間か後、敵機がいなくなつてから工場に戻つてみると、ぐにやぐにやに曲がつた鉄骨が残っているだけであとは何もありませんでした。工場の中には貨物列車の軌道が敷かれています。門の近くには機関車がひっくり返っていました。その周りにはたくさんの方が死んで倒れていて、胴体だけになっていたり、もげた腕が転がったりしていました。今でも脳裏から離れないのは、前から見れば人間の顔をしているが、後ろへ回ると後頭部を爆弾の破片でえぐられて亡くなつておられる人の姿で、ほんとにこの世の生き地獄でした。80万坪あるといわれていた海軍工廠に3,500発もの爆弾が落とされました。8月15日が終戦ということになりました。8月15日が終戦ということはおそらくわかつていたはず。その24時間が非常にくやしき思えます。生き残った者としてこの事実を伝えていかなければと思つていきます。

光市では毎年8月に戦役者追悼式をおこない、この空襲による犠牲者の霊を弔っています。

「広島県動員学徒等犠牲者の会」の会員であり、平和活動の分野において多岐にわたって精力的にご活動中の辻靖司さんに、その活動内容をお聞きしましたので、その概略をご紹介します。

辻靖司さんの平和活動への取組内容の概略

①ヒロシマ・ピース・ボランティア6期生としての活動

・ヒロシマ・ピース・ボランティアは、広島平和記念資料館を運営する広島平和文化センターが、1999年に被爆の実態を継承する取組として登録制度を開設しました。現在13期生まで登録されています。
・今年で13年目の活動に入っています。

・毎週の土曜日は、平和記念資料館内展示品の説明や、平和記念公園の慰霊碑・記念碑の説明・解説をする活動に取り組んでいます。
・多い時には、1日に3グループを、ご案内をすることがあります。
・ボランティア登録者は197名(2017.4.1現在)で、常時活動している方は、約130名ぐらいです。

②平和記念資料館で任命された平和学習講師としての活動
・市内の小中高校を訪問しての平和学習講師の活動は6年目の活動に入っています。

・月に2〜3回訪問しています。

・平和学習コースとしては、小学生低学年用(1〜3年)、小学生高学年用(4〜6年)、中学生用、高校生用とあります。

・平和学習の講話内容は各学年に応じてレベルは相違しますが、いずれも核兵器の開発から原爆投下までの経緯

原爆投下による熱線、爆風、放射線被害の説明

現在の世界の核兵器の保有数
非人道的な核兵器の廃止と恒久平和実現への取り組みについて
といった内容の構成です。

・1回の講話時間としては、45分間の講話、その後、10〜15分の質問の時間となります。

・平和記念資料館での平和学習講師は、現在10名任命されています。

③被爆体験伝承者としての活動
・被爆体験証言者のお話を伝承する被爆体験伝承者としては、6年目の活動に入っています。

・主に平和記念資料館において、月5から6回の英語講話(約50分)、月1回の日本語講話(約50分)を行っています。

・被爆体験伝承者は、広島平和文化センターから委嘱を受けているもので、2017年4月現在で88名が活動中です。

④活動していく上での、モットー&

感想

「千里の道も一歩から!」といいますが、講話を聞いていただいたお一人お一人が、お帰りになってご家族に講話内容や感想をお伝えいただくなど、それぞれ自分たちができる「まず一歩!」の行動を起こしていただくことが、平和継承活動においても最も大切なことだと強く思っています。平和学習講師の講話、被爆体験伝承講話のいずれにおいても、そのようなお話をさせていただいております。

また、最近では、平和学習講師の活動、伝承講話の活動ともに、定時講話以外にも、館外や市外からも声をかけていただくことがあり、平和活動への関心の深さ・高まりを実感できて、とても嬉しく思っております。(本地)



資料館で説明している辻靖司さん

ご寄付お礼

平成29年6月から平成29年10月までに、次の皆様から貴重なご寄付をいただきました。ご厚志、誠にありがとうございます。

志水 清 様

- 谷 増 喜久雄 様
- 宇 葉 宗 人 様
- 桑 原 キヨ子 様
- 向 井 宏 子 様
- 諏 訪 了 我 様
- 西 村 光 子 様
- 鳥 羽 孝 明 様
- 匿 名

前理事長 土井通哉氏 ご逝去のお知らせ

広島県動員学徒等犠牲者の会の理事、理事長を務められた土井通哉氏が、本年10月5日に永眠(享年84歳)されました。

理事長在任中には被爆体験の継承を目的とした文集「慟哭の証言」を発刊され、県下の全小中高等学校、全国の図書館などへ配布されました。ご功績を称え衷心よりご冥福をお祈りします。

あとがき

今年のカープは、残念ながらCSファイナルでの不甲斐ない惨敗で、くやしさと来季への大きな不安が残った幕切れでした。来年こそ、巨人しか達成していない、「セリーグ3連覇!」と、日本一奪取!「頼むよ!カープ!!」球春が待ち遠しい。(本地)